

再評価結果（令和3年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局 環境安全・防災課
担当課長名：荒瀬 美和

事業名 高規格ICアクセス 主要地方道 <small>こさ</small> すさみ古座線 <small>にしむかい</small> 西 向	事業 区分 地方道	事業 主体 和歌山県		
起終点 自：和歌山県東牟婁郡串本町西 向 至：和歌山県東牟婁郡串本町西 向		延長 0.6km		
事業概要 主要地方道すさみ古座線は、すさみ町の国道42号を起点とし、内陸部を横断しながら、串本町の国道42号を終点とする延長約37.5kmの幹線道路である。当事業箇所は、現在事業中の近畿自動車道紀勢線（串本太地道路）（仮称）古座川ICから国道42号へのアクセス道路であるが、幅員が狭小で乗用車どうしの対向が困難な状態である。また、当路線は緊急輸送道路（第二次）に指定されており、災害発生時の緊急輸送の強化を図る上で非常に重要な路線であるとともに、南海トラフ地震に伴う津波浸水時における救助・救援の要として、優先的に啓開すべき『啓開ルート』に選定されている。当事業で現道及び踏切部を拡幅することにより、インターアクセスとして高規格幹線道路利用者の利便性向上と地域の産業や観光の振興を図るとともに、緊急輸送道路としてのネットワーク強化を目的としている				
令和2年度事業化	—	用地未着手		
全体事業費	約12億円	事業進捗率 約2%		
計画交通量	3,300台/日	供用済延長 — km		
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.2 (残事業) 1.2	総費用 (残事業)/ (事業全体) 11/11 億円 (事業費：10/11億円) 維持管理費：0.2/0.2億円	総便益 (残事業)/ (事業全体) 13/13億円 (走行時間短縮便益：13/13億円) (走行経費減少便益：0.36/0.36億円) (交通事故減少便益：0.08/0.08億円)	基準年 令和2年
感度分析の結果 (事業全体) 交通量 : B/C=1.03~1.4 (交通量 ±10%) 事業費 : B/C= 1.1~1.3 (事業費 ±10%) 事業期間 : B/C= 1.1~1.3 (事業期間±20%)			(残事業) 交通量 : B/C=1.1~1.4 (交通量 ±10%) 事業費 : B/C=1.1~1.4 (事業費 ±10%) 事業期間 : B/C=1.2~1.3 (事業期間±20%)	
事業の効果等 ①地域の活性化 近畿自動車道紀勢線（仮称）古座川ICから国道42号への円滑な交通が確保されることにより、観光振興や産業振興が期待される。 ②緊急輸送道路としての機能 第二次緊急輸送道路に指定されており、災害時における、より円滑な防災拠点への物資輸送や被災地への救援活動のためのネットワーク強化を図る。 ③地域防災の支援 南海トラフ地震に伴う津波浸水時における救助・救援の要として、優先的に啓開すべき『啓開ルート』としての機能が十分に発揮できる。 ④歩行者・自転車の安全確保 狭隘な踏切の拡幅や歩道を設置することにより、周辺住民及び周辺施設（駅・保健所等）を利用する歩行者等の安全を確保することができる。				
関係する地方公共団体等の意見 周辺自治体から要望があり、早期完成を望んでいる。				
事業評価監視委員会の意見 事業継続を妥当と認める。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 特になし。				
事業の進捗状況、残事業の内容等				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 近畿自動車道紀勢線（串本太地道路）の進捗と合わせ事業を推進していく。				

